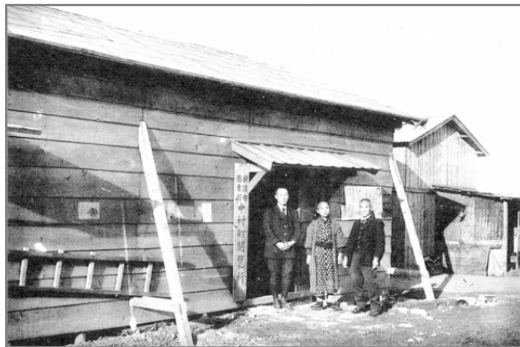


1 沿革

年	月	事 項
大正 8 (1919)	12	開港60年・自治制30周年記念事業として図書館の建設を計画。
10 (1921)	6	横浜公園内の建設事務所内仮閲覧所で図書の閲覧開始(横浜市図書館の開業)。
12 (1923)	9	関東大震災により建物と蔵書を焼失。
	12	中村町のバラックに仮閲覧所を設置し、閲覧開始。
13 (1924)	3	横浜公園内に仮本館が竣工し、落成記念に震災展覧会を開催。
	4	閲覧業務を実施。
	9	館外貸出を実施。
昭和 2 (1927)	7	旧老松小学校跡に横浜市図書館竣工。
5 (1930)	1	『横浜市図書館報』創刊。
9 (1934)	11	巡回文庫開設(4隣保館に図書の一括貸出)。
12 (1937)	7	横浜市図書館を後援し各種文化事業を行う「横浜読書協会」を設立。
14 (1939)	4	町村合併により、都筑郡都岡村、田奈村、及び鎌倉郡瀬谷村の各図書館を廃止し本館閲覧所として設置。
19 (1944)	10	一般閲覧室を市会議場として使用。
20 (1945)	3	横浜連隊区司令部の接收により戸部小学校に移転。図書館の建物は、終戦後米軍に続いて市復興局が使用。
	9	戸部小学校から教育会館に移転。
22 (1947)	8	移転先より野毛に復帰。
	9	開架式で閲覧業務を再開。
25 (1950)	4	館外個人貸出開始。 図書館法公布で閲覧無料となる。
29 (1954)	10	団体貸出事業開始。 読書週間行事として1日図書館長(女優 岸恵子)実施。
32 (1957)	3	『郷土よこはま』創刊。
33 (1958)	8	巡回緑陰子供図書館を日吉の慶応大学構内等で実施。
34 (1959)	5	「サンディエゴ＝横浜友情文庫」を特設。
	7	貸出文庫用自動車購入。翌年1月から本格的に配本開始。
35 (1960)	5	日吉閲覧所開設(44年9月団体貸出に移行)。
38 (1963)	1	新館増改築工事竣工。
44 (1969)	8	団体貸出用広報『ひろば』創刊。
45 (1970)	4	横浜市図書館報『こだま』創刊。
	8	移動図書館「はまかぜ1号・2号」による巡回貸出開始(トークン式※1)。
47 (1972)	10	『横浜市図書館行政の施策と展望(意見具申)』(横浜市社会教育委員会議)が出される。
48 (1973)	11	「横浜市総合計画1985」策定。方面別図書館建設の方針が出される。

年	月	事 項
昭和 49 (1974)	10	磯子図書館開館。市立図書館2館となる。
52 (1977)	4	山内図書館開館。市立図書館3館となる。
53 (1978)	11	戸塚図書館開館。市立図書館4館となる。 初めて貸出にコンピュータ方式を採用。
54 (1979)	5	戸塚図書館で視覚障害者サービス開始。
55 (1980)	1	鶴見図書館開館。市立図書館5館となる。
	5	金沢図書館開館。市立図書館6館となる。
	6	磯子図書館(フォトチャージング式※2))、山内図書館(記名トークン式※3)の貸出方法をコンピュータ方式に転換。
	7	『こだま』『ひろば』を統合し、図書館報『よこはま』創刊。
	8	港北図書館開館。市立図書館7館となる。
	9	中国・上海図書館との図書交換開始。
56 (1981)	1	中国・遼寧省図書館との図書交換開始。
	4	図書館間の連絡車が稼動。
10		横浜市図書館創立60周年記念講演会・パネル展開催。
	12	「よこはま21世紀プラン」策定。1区1館建設及び中央図書館建設方針を確立。
57 (1982)	5	保土ケ谷図書館開館。市立図書館8館となる。
58 (1983)	2	戸塚図書館で団体貸出開始。
59 (1984)	3	金沢図書館、港北図書館で団体貸出開始。
60 (1985)	1	瀬谷図書館開館。市立図書館9館となる。
	3	保土ケ谷図書館で団体貸出開始。
	10	港北図書館で視覚障害者サービス開始。
61 (1986)	5	旭図書館開館。市立図書館10館となる。
	10	「横浜市中心図書館基本構想委員会」設置。
62 (1987)	1	港南図書館開館。市立図書館11館となる。
	4	地域図書館の火～木曜日の開館時間を午後7時まで延長(金曜日は以前から7時)。
	5	『横浜市中心図書館基本構想委員会報告書』提出される。
	10	神奈川図書館開館。市立図書館12館となる。
	11	各図書館報を統合して横浜市立図書館報『横浜』創刊。「文化の日」開館開始。



横浜市図書館中村町仮閲覧所(大正12年頃)
『横浜市図書館概要』(昭和2年)より

年	月	事 項	年	月	事 項
昭和 63 (1988)	12	保土ヶ谷図書館、金沢図書館で視覚障害者サービス開始。	平成 10 (1998)	3	図書館ホームページを開設、インターネットによる蔵書検索サービス開始。
	1	山内図書館改修工事竣工、団体貸出開始。			旭図書館で視覚障害者サービス開始。
平成 元 (1989)	3	横浜市図書館貴重資料展示会「100年前の横浜大探検」開催。	11 (1999)	3	鶴見図書館で視覚障害者サービス開始。
	2	泉図書館開館。市立図書館13館となる。		5	「庁内情報拠点化事業」開始。
	3	栄図書館開館。市立図書館14館となる。	11	磯子図書館、磯子区総合庁舎に移転開館。	
		『横浜市中央図書館資料収集検討委員会報告書』が提出される。		「予約図書情報ダイヤル」サービス開始。	
	5	中図書館開館。市立図書館15館となる。	12 (2000)	12	磯子図書館で視覚障害者サービス開始。
		「こどもの日」開館開始。		3	瀬谷図書館で視覚障害者サービス開始。
	11	「よこはま21世紀プラン」第3次実施計画策定により、中央図書館・分館を含めた図書サービスネットワーク確立の方針を打ち出す。	4	市立図書館全館で祝日等年間30日の開館日拡大。中央図書館の火～金曜日の開館時間を午後8時30分までに延長。	
2 (1990)	1	中央図書館建設のため横浜市図書館休館。	13 (2001)	12	市立図書館全館で月曜日開館開始。
	3	横浜市図書館仮設館開館。	14 (2002)	12	「横浜市中期政策プラン」策定。地区センターとの連携、図書館情報システムの改善を計画。
		山内図書館で視覚障害者サービス開始。	15 (2003)	1	図書館情報システムを更新。
	9	横浜市図書館を解体、中央図書館着工。	16 (2004)	3	蔵書検索結果の資料詳細画面に、目次、要旨、内容紹介等の情報を追加。
	10	泉図書館で視覚障害者サービス開始。		5	Eメールレファレンスサービス開始。
3 (1991)	4	神奈川県図書館情報ネットワークシステム(KL-NET)に加入。	17 (2005)	1	登録更新手続きを開始。
		バンクーバー公共図書館との図書交換開始。		4	ホームページにバナー広告掲載開始。
	10	中図書館で視覚障害者サービス開始。			ホームページに「Yokohama's Memory《都市横浜の記憶》」を公開。
4 (1992)	10	栄図書館で視覚障害者サービス開始。			地区センター等蔵書情報を公開。
	12	南図書館開館。市立図書館16館となる。	5	「地区センター等ネットワーク試行調査事業」先行実施。	
5 (1993)	10	横浜市図書館仮設館の個人貸出・閲覧業務を停止。		9	貸出レシートに広告掲載開始。
6 (1994)	1	各図書館で「横浜市内図書館情報システム」による窓口業務開始。		10	インターネットでの予約・貸出延長サービス開始。
	2	中央図書館一部開館。		12	「地区センター等ネットワーク試行調査事業」開始。(二俣川、東戸塚両行政サービスコーナーでの貸出・返却サービス、東急田園都市線3駅への返却ポスト設置)
	4	中央図書館全面開館。図書館情報システム全面稼働。	18 (2006)	2	中央図書館でインターネット閲覧サービス開始。
	12	南図書館で視覚障害者サービス開始。		10	「横浜市内図書館のあり方懇談会」開設。
		「ゆめはま2010プラン」基本計画策定。		12	「横浜市中期計画(横浜リバイバルプランⅡ)」策定。「市立図書館のあり方検討」を計画。
		1区1館達成後、図書館8館の新設と地区センター等とのネットワーク整備を計画。			中央図書館「医療情報コーナー」開設。
7 (1995)	4	都筑図書館開館。市立図書館17館となる。			戸塚図書館再整備工事着手。
	5	緑図書館開館。市立図書館18館となる。	19 (2007)	1	地域図書館5館(※4)でインターネット閲覧サービス開始。
		1区1館の達成。		2	全館に「初めて出会う絵本コーナー」開設。
8 (1996)	1	中央図書館で来館困難な障害者に対する配送貸出サービス開始。			中央図書館「外国語本コーナー」開設。
	3	神奈川図書館で視覚障害者サービス開始。			
	5	中央図書館でCD-ROM検索サービス開始。			
	12	緑図書館で視覚障害者サービス開始。			
9 (1997)	3	磯子図書館、移転再整備工事着手。			

※1 トークン式:登録者に必要な枚数だけプラスチック製の札トークンを渡し、貸出しの時には貸出す本の冊数だけトークンを受け取り、返却のときは返された本の冊数だけトークンを利用者に渡す方法。『横浜の本と文化』(横浜市中央図書館発行)より

※2 フォトチャージング式:カメラで撮影して、マイクロフィルムに図書館カードと、書名、日付、通し番号を写し取り、図書貸出記録とする方法。フィルム1巻分の撮影が終わると現像に出し、現像したフィルムはフィルムリーダーで読み取っていた。

※3 記名トークン式:利用者名が書かれたトークンを、借りる本の冊数だけ図書館に渡す方法。図書館は、記名トークンを返却日ごとに名前順の50音順に並べ、返却のときには、図書館職員が記名トークンを探し、利用者に返していた。

※4 地域図書館5館:旭・金沢・緑・都筑・栄図書館



トークン(移動図書館で使用)

年	月	事 項
平成 19 (2007)	3	中央図書館「ビジネス資料コーナー」改装。
	7	戸塚図書館再整備工事完了。
	8	『横浜市立図書館のあり方懇談会報告書』の提出を受ける。
20 (2008)	10	全館で「ティーンズ・サービス」開始。 「地区センター等ネットワーク試行調査事業」拡充。(青葉区内地区センター等6施設での貸出・返却開始)
	1	中央図書館「音楽映像ライブラリー」改装。 横浜市立図書館情報紙「@Lib」創刊。
	4	中央図書館「PCリサーチコーナー」改装。
	6	16館(※5)に液晶モニター付きAEDスタンド設置。
21 (2009)	12	中央図書館「法情報コーナー」開設。
	3	保土ヶ谷図書館耐震補強等工事完了。 図書館ホームページリニューアル。 全地域図書館にインターネット閲覧サービス拡大。
	4	横浜開港150周年事業を開催。(～12月)
	10	開港150周年にあたって小学生から募集した『ヨコハマの子どもが選んだ150冊』を発表。
22 (2010)	2	文部科学省による図書館プロジェクト「図書館海援隊」(課題解決支援サービスに取り組む図書館で構成)に参加。
	3	金沢図書館耐震補強等工事完了。
	4	山内図書館で指定管理者による運営を開始、あわせて平日火～金曜日の開館時間を午後8時30分まで延長。 中央図書館司書補助業務委託、及び書誌作成業務委託導入。
	7	国民読書年事業として「ヨコハマ、本の虫宣言～2010年は国民読書年」を開催。
23 (2011)	8	第1回サイエンスカフェ開催。
	9	「横浜市立図書館司書人材育成計画」を策定。
	12	山内図書館で有料宅配サービスの試行開始。
	1	「横浜市立図書館アクションプラン」を策定。 「横浜市教育振興基本計画」が策定される。
24 (2012)	3	「蔵書再構成5か年計画」及び「横浜市立図書館児童サービス5か年計画」を策定。
	4	都筑図書館、戸塚図書館司書補助業務委託導入。 行政サービスコーナーでの図書取次サービスをオンライン化。 簡易版蔵書検索システム開始。 横浜市立図書館メールマガジンの配信を開始。
	6	横浜市立図書館創立90周年。記念事業開催。
	7	節電のため9月まで、中央図書館を除く地域図書館で、週1日輪番による休館を実施。

年	月	事 項
平成 25 (2013)	1	図書館情報システムを更新。
	3	市立図書館ホームページに「ボランティア活動お役立ち情報」サイト開設。
	4	市立学校への学校司書の配置が決定。
	6	「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」公布。
26 (2014)	10	市立学校への学校司書の配置開始。 学校司書への研修・交流会を実施。
	3	港北図書館耐震補強等工事完了。 横浜市立図書館ホームページトップページリニューアル。 「横浜市民読書活動推進計画」が策定される。
	4	「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」施行。 各区に読書活動推進担当課長を設置。 (地域図書館長が兼務。西区はサービス課長、青葉区は企画運営課長が兼務。)
	10	ボランティア向けメールマガジン配信開始。
27 (2015)	11	横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム 「横浜読書百貨展」(第1回)開催。 「第2期 横浜市教育振興基本計画」策定。
	2	「横浜市立図書館蔵書5か年計画」及び「横浜市立図書館児童サービス5か年計画」を策定。(平成27年度～平成31年度)
	3	「横浜市立図書館アクションプラン(第2期)」(平成27年度～平成31年度)を策定。
	11	横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム 「横浜読書百貨展」(第2回)開催。
28 (2016)	1	港南台地区センターでの図書取次サービス開始。
	3	「司書人材育成計画」を見直し、「司書職人材育成計画」を策定。 移動図書館はまかぜ号新車両運行開始。



横浜市図書館閲覧室(昭和35年)
(広報課写真資料(横浜市史資料室提供))

※5 16館:全18館のうち、金沢・都筑図書館を除く